

◇ 目 次 ◇

- | | | | |
|----|-----------------------------|----|--------------|
| P2 | RCC エコロジー大賞受賞 | P6 | 宮島二郎記 平田 広三郎 |
| P3 | 公募観察会・初夏の宮島 | P7 | ミヤジマトンボ現地研修会 |
| P4 | 宮島一周踏破記 岩崎 義一 | | 編集後記 |
| P5 | 包ヶ浦海岸清掃、クリーン
ディ、厳島神社海浜清掃 | | |



うさぎのお月見

今年の中秋の名月は10月3日(土曜日)です。そこで今回はドングリでお月見をするうさぎさんを作ってみました。

これからは新しいドングリが落ち始めます。宮島ではアカガシとツクバネガシのド

ングリがたくさんあります。殻斗(かくと)はどちらもピロード状で肌触りがいいのでよく使用します。.

これからもいっぱい拾って、楽しい作品を作りたいと思っています。

(小方 嗣彬)

RCC エコロジー大賞を受賞

PV10年 多彩な活動が評価される

6月19日(金) RCC文化センターにおいて、2009年度・第5回エコロジーファンド受賞式がありました。RCCエコロジーファンドとは、RCCのISO活動の実践から基金を創出し、広島環境活動に取り組む団体を助成し支援しているものです。

宮島PVの会は、世界遺産「宮島」での幅広い活動とJPRの支援等を評価され、応募総数37団体の中から、栄えある第5回RCCエコロジー大賞に選ばれました。

大賞の他には、RCCエコロジー賞(登山と写真を楽しむ会/芸北町自然保護レンジャー/久地北・太田川げんき村/サポート・トレッキング・グループの4件)、奨励賞(4件)、特別賞(3件)が表彰されました。

村上会長の挨拶、そして各受賞団体からの活動内容紹介は、それぞれ持ち時間を大幅に越える発表で、アピールするものが多く熱心に活動されている様子を伺うことができました。

活動と継続、それを支えている皆さんのボランティア精神あつてのことです。これからも和気藹々と活動できる雰囲気作りをし、他団体に大いに啓発され、楽しみながら研鑽を積みみたいと感じた一日でした。

(舩田 祐子)

環境の日 ひろしま大会

今年も6月7日(日曜) 広島県庁前広場を会場として出展32団体にて「環境の日」ひろしま大会が行われました。

環境省中四国地方環境事務所のブースの中に「宮島パークボランティアの会活動紹介パネル」を2枚掲示し、PVの自然観察会や樹木名板の取り付け、清掃活動、RCCエコウオークなどを写真とともに紹介しました。難しい地球環境問題解決に対し、身近な自然環境保護の地元での取り組みとして関心が持たれたことと思います。

会場は10時の開始から多くの人々が訪れ、昨今の環境への関心の高さから、家族連れなどで大変な賑わいでした。

水素自動車展示や各出展ブースでの「エコ体験」「環境紙芝居」「環境クイズ」など工夫を凝らしていました。

(岩崎 義一)



村上会長以下表彰式出席者

その後、広島工業大学の今岡務先生から「リサイクル文化とボランティア文化」について講演がありました。江戸社会からあったリサイクル文化(下水整備や、し尿利用など)、のちに水質汚染などにより崩壊したこと、そして“もったいない文化”の復活。また、ボランティアとは志願兵のこと、地震でのボランティア活動など、貴重なお話を聴くことができました。

今回この大賞を頂いたのは、PVの熱心な



PVの活動紹介展示パネル

一般公募観察会

初夏の宮島

日時 6月13日(土) 9:00~16:00

参加者 井上 岩崎 小方(嗣)小川
小林ペア 佐渡 島 末原 中道 舩田
丸平 村上 横路 六重部

環境省 桑原保護官 一般参加者 19名

9時受付開始、9時半開会式。会長の開会挨拶「昨今、『生物の多様性』や『絶滅危惧種』ということがしきりに叫ばれています。なかなか馴染みにくい言葉ですが、本日の観察会を機会にこの言葉にぜひ関心を持って下さい。」のあと、幹事さんからの諸注意と出発の合図が出ましたが、なかなか動きません。

足元の矮小化したヤクシマオオバコに目がくぎ付けのようです。シカの食圧による矮小植物も「宮島ならではの～」一つです。

10時過ぎ、やっと動き出しました。本日は4班に分かれ、各班のリーダーは六重部、小方、丸平、中道さん。大元公園から室浜の広島大学植物実験所まで、自然が丸ごと残されたコースです。

ここでは本土ではほとんど見られなくなっ



広島実験所での参加者

た人工物のない自然海岸、今や貴重な魚付林、真上から見下ろせる海岸樹林、ヤブツバキなど照葉樹の原生林、そして絶滅危惧種にも指定されているイワタイゲキなどの海浜植物群落を楽しみました。何度来ても見ることができなかった花、先週の下見会では見事に咲いていたという、オオバウマノスズクサの花が

今日はもう見られなかったのは、何としても残念でした。

12時丁度、室浜海岸到着。目の前に広がる砂浜とハマゴウの群落を見ながら昼食。やがてこの夏にも、本土では見られない一面に広がるハマゴウの青い花が見られるはずです。

13時から、広大坪田先生の「白糸川の土石流崩壊と森林復活」の講義で、植生を中心にした研究の一端をうかがいました。また、演習林を案内いただき「シダ刈り実験区域」を見学して、宮島のシダ(コシダ・ウラジロ)の逞しさをあらためて認識しました。

室浜砲台跡では、中道さんから鷹ノ巣砲台と対比しながら、砲台建設の経緯と明治の技術者・匠の「物作りへの心意気」について、熱心にお話をいただきました。

15時過ぎ室浜出発、16時大元着。このコースで見ることができる絶滅危惧種 15種のうち、トサムラサキなど5種に出会えて満足、満足。そして無事解散。

「宮島ならではの～」楽しい1日でした。準備いただいた皆さん、有難うございました。

(村上 光春)

入浜観測と水路整備

日時 6月27日(土) 9:00~14:00

参加者 足立 池下 井上 小方(嗣)小川
川崎 小林ペア 近藤 佐伯 佐藤
末原 富田 松田 丸平 村上 横路
六重部

タクシーに分乗して入浜に向い、水路整備と水質調査班に分れ作業にかかる。

水路は例によって橋の下を過ぎると砂浜に出る前に砂の中に消えてゆく水を確保するために開削、なかなかの難行。

水質調査は今回から温度計が新しくなり、器材が充実した中で、定例のA~F地点で行った。検査項目は水温・PH・塩分濃度・CODである。水路に流入する沢の水の流量を計測。

(測定結果はP7に記載)

一通り作業、調査が終わったところで昼食、空には今年の繁殖も成功したミサゴ数羽が舞い、浜にはキスの群れも来て、長閑な初夏の1日である。

(以下P7左段に続く)

宮島一周踏破記

岩崎 義一

—安芸の宮島廻れば七里

浦は七浦七恵比寿—

5月24日大潮(干潮マイナス4cm)の日、
宮島の最西南端・革簞崎(こうござき)
への宮島完全一周を行いました。10時
間、30キロ強の道のりでした

まずは東周りで青海苔浦まで車道に行く。こ
こで青海苔川を越えるために潮待ち、約1時間
20分。11時40分出発時点の推定潮位+180cm。

ここから革簞崎を経て、あての木浦までは
道はない。一番の難所が養父崎浦までの大ハナ、
青海苔浦から最初は岩場の崖の歩行となるが、
その後は潮の引いた海岸歩行、濡れている大石
の上に行くが、滑るうえにかなり足に負担がく
る。しかし海に入って靴を濡らすことはない。

「御島喰式」の行われる養父崎浦神社、次い
で山白神社を通過、北を仰ぐと岩船岳、沖合い
は阿多田島。2時間と少しで外革簞の浜へ(丁度
この日は県の環境調査が行われていた)、北に回
り込むと可部島と大竹市街が見え出し、風景が
一変する。ここが目的地の革簞崎である。しば
らく休息。

ここからは意外と楽な歩行となる。あての木



革簞崎

浦から江の尻、長浦は長い砂浜に行く。あての木
浦からは満潮のときでも山道があるので棧
橋まで帰ることができ、安心できる。(山道経由

では棧橋まで約4時間)この日は完璧な干潮と
なっているので、そのまま北上、平根の岬から
須屋浦に回り込む。御床神社から大川浦、大江
浦へは牡蠣の養殖場の間を直進、大いに歩行は
進む。海岸を進む方が時間は短縮できる。内侍
岩から室浜に着き、広大実験所からは、いつも
の車道にて棧橋に戻る。

青海苔浜から革簞崎までは断崖ですから、安
易に行くべきではありませんが、潮さえ考慮し
て計画を立てれば、逆回りにして広大実験所か
ら 革簞崎まで普通の歩行で到達できます。

今回の探索でルートと時間設定を確認でき
たので、いつか潮と季節の良い時にPVの会の
行事として革簞崎まで案内したいと思います。

◎ルートと時間・潮位

棧橋	7時20分発	
青海苔浦	10時15分着	
	(満潮 9.00 +316 cm)	
青海苔浦・潮待	11時40分	出発(+180 cm)
養父崎浦	12時50分	(+120 cm)
山白浦	13時30分	(+80 cm)
革簞崎	14時・休憩	(+50 cm)
あての木浦	14時30分	(+30 cm)
須屋浦	15時10分	(休憩) (0 cm)
	(干潮 15.23 マイナス 4 cm)	
御床浦	15時40分	(0 cm)
大川浦	16時	(+20 cm)
室浜	16時40分	(+50 cm)
棧橋	17時40分	到着

不明の町石見つかる

弥山登山道の町石しらべで、大元道、仁王門
まで23町のうち、3基が不明でしたが、その
うち三町の町石が町石理解者・山崎美和さん
によって発見されました。

場所は旧登山道ではなく、意外にも大元公園
のあずまやの東裏、
遊歩道沿いでした。

まだ十町、十八町
の2基が失われたま
まですが、これから
も発見の可能性があ
り、探索を続けてい
きたいと思っています。
(岩崎 義一)



三町町石

包ヶ浦海岸清掃

日時 7 月 11 日 (土) 9:00~14:00

参加者 足立 井上 岩崎 小方(嗣)小川
五石 小林(勰)佐伯 島 末原 田中
中道 中本 平田 前田 丸平 宮崎
村上 森 柳瀬 矢吹

恒例となった、海開き前の包ヶ浦海岸清掃活動、前日までは梅雨の雨を予想していましたが、降雨確率 10%、予定通り実施しました。

清掃場所は昨年と同じ、南側海岸、今年は昨年に比べ流木や竹は少なかったですが、カキ養殖で使うプラスチックスペーサーは相変わらず多く、分別しながら集めたゴミは 36 袋余り、運搬のトラック一杯になりました。



作業後のそうめん流し

今日の作業でこれから海水浴に来られた人が、少しでも気持ちよく過ごせたらと願いながら作業を終えました。



包ヶ浦海岸清掃作業参加者

作業後の昼食は昨年に続き島さんが準備してくれたソーメン流しをご馳走になり、疲れた体も癒されました。島さん有難うございました、来年も宜しくお願いします。

(前田 正人)



日時 8 月 2 日 (日) 9:00~12:00

参加者 足立 池下 池田 井上 五石
小林(勰)佐藤 末原 田中 平田
平山 丸平 村上 森 柳瀬
桑原 自然保護官

全国一斉の自然公園クリーンディにPV、県・市職員・一般市民など35名が参加し、紅葉谷公園他5箇所のゴミ拾い、ポケット灰皿の配布、小なきり海岸の清掃を行い210kgのゴミを収集しました。(末原 義秋)

厳島神社海浜清掃

日時 8 月 5 日 (水) 13:00~16:00

参加者 井上 川崎 佐藤 坂本 島 末原
中道 平田 平山 横路
管絃祭を前に厳島神社の大鳥居から回廊までの海浜の清掃作業をPVとして初めて実施しました。

今年は、意外にもアオサがなく、漂着ゴミの収集作業を行いました。

暑い中での作業でしたが、清掃後全員で神社を参拝し、すがすがしい気分でした。皆さんご苦労さんでした。

(末原 義秋)

宮島二流記

(その2)

平田 広三郎

Q2:「ハンゲショウ餅」ってあるでしょうか？

本題のきっかけは、JR 西広島駅にあった、「奈良観光ガイドブック」に記載してあったからです。私も最初はあるな匂うものを餅に混ぜるなんてと思ったのですが！

A2:あります。

答えを出す前にハンゲショウ（半夏生）について整理してみましょう。

半夏生は①雑節の一、24 節気の夏至から 11 日目、今年は 7 月 2 日②ドクダミ科の多年草。

ここで、①に関連して太陰暦（旧暦）の「二十四節気」と「雑節」について述べてみます。古来太陰暦の欠点を補うため、1 年（春分から次の春分まで）365 日を 24 等分する方法「二十四節気」が考え出されたのです。太陽暦で 1 年の長さが 365 日であることは、紀元前（BC）から判っていたのですが、1 年を 24 等分すると 1 節気は 15.22 日となりますので、1 か月を(15 日+15 日)を 7 回、(15 日+16 日)を 5 回で 365 日となります。二十四節気が考えられたことで、太陰暦が太陽暦により近づき、気候の推移が太陽の推移によって示されるようになりました。一方「雑節」は、生活の中から自然発生的に生まれた民族行事や農家の方々の年中行事を総称して言われてきたものです。節名称は、節分・彼岸・社日・八十八夜・入梅・半夏・土用・二百十日・二百二十日の 9 節、場合によっては初午・中元・盂蘭盆（うらぼん）・大祓（おおはらい）が加えられることがあります。このうち半夏生は、夏至から数えて 11 日目の 7 月 2 日頃から 7 月 7 日頃までの 5 日間を示し、「雑節」の中では唯一、七十二節気（候）からとられた名称です。

一方②の植物の半夏生は宮島でもお馴染みですが、別名「半化粧」・「片白草」ともいわれ、花期に葉が白くなるのは、虫媒花であるために虫を誘う必要からこのように進化したのではないかとされています。特に半化粧の方は、よく映画や TV に出てくる遊女が、顎の下を白い化粧で塗っているのが想像出来て言い得て妙ですね。片白草の方は上面全部が白

くなっているのを表しているのだと思われます。

さて本題の「半夏生餅」ですが、室町時代より、奈良地方の吉野川以北の国中（くんなか）地域の農家で半夏生の日には食べられます。

「小麦餅」とも呼ばれ餅米と小麦を混ぜて搗いた餅に黄粉をまぶす素朴なものです。小麦は、ビタミンやミネラルが豊富で繊維質が消化を助け、さらに酵素のおかげで餅が硬くなく、のど越しが良くなる性質があります。田植えがひと段落した半夏生の頃といえば、蒸し暑さもあり、人々の体は疲れるとき、昔の人は自ずと滋養のあるものを食べるという暮らしの中から生まれる知恵はすごいものだと言えます。奈良の人々の間では「はげっしょもち」とも呼んでいます。同じようなことは、京都府福知山市（丹波国）では、田に植えた稲の苗が蛸の足のようになり大地にしっかりと生えるようにとの願いから、半夏生の時に蛸を食べる習慣があります。蛸には血圧やコレステロール値を下げる働きのあるタウリンが豊富に含まれています。08 年 6 月 28 日付の中国新聞の記事の中に、広島市内のスーパーでは数年前から半夏生に蛸を食べましょうとチラシを配り始め、01 年から「蛸の日（半夏生の日と同じ）」が記念日に仲間入りしたとあります。

いずれにしても過酷な農作業を終えて秋の収穫を祈るとともに、体力回復を願う人々の生活感がにじみでている行事だと言えます。

「ハンゲショウ」については、会員の中道勉さんが「みせん 17 号」の表紙に写真と文章を載せておられますから再読してみてください。

今回は Q3「宮島にちなんだ星はあるでしょうか？」です。

（参考文献）

・「知れば知るほど奈良はおもしろい」 2008 年春号 （社）奈良県観光連盟 「郷土史紀行 57 号」 ヒューマン・レクチャークラブ

「みせん」次号 38 号発行予定

発行日 12 月 1 日

原稿締切 10 月末日

皆さんの投稿をお待ちしています。

ミヤジマトンボ 現地研修会

日時 7月3日(金) 9:00~14:30
 参加者 池下 川崎 小林(み) 末原 中本
 平田 松田 横路
 環境省 西 保護官 広瀬 AR 梶原
 他団体 3名

7月1日の予定でしたが、当日雨のため順延して7月3日に実施しました。今回研修を予定していた地点は H19 年以降の維持管理の結果もあって、曇りでメスの出現が少しでしたが、ミヤジマトンボの飛翔や近くでの観察ができました。講師の説明も親切・丁寧で今後の展開も期待できるようです。我々は水路の土のう(300袋)の積



現地研修参加者

み直しと土砂除去を行いました。

講師の方からインターネットにおいて「ミヤジマトンボのきた道」を検索できることを伺いましたので試してみてください。

実物のミヤジマトンボが見られますので次のチャンスにはぜひ挑戦されたいと思います。(平田 広三郎)

(P3右段から)

昼食の後、しぶとく復活しているオオフサモについて六重部さんから話があった。オオフサモは昨年除去したはずだが、少しでも残っていると忽ち繁殖を始める。除去すべき特定外来生物は他にもオオカナダモ、オオキンケイギクなど生命力の強いものが多いので関心を持ち続けたいものである。

その後松田会員から報告を聞く、池で確認したトンボの成虫はキイトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、チョウトンボ、ショウジョウトンボ、ギンヤンマ、マルタンヤンマ、ムスジイトンボ、タイリクアカネ、マイコアカ

ネ、水中ではフナの子魚、マツモムシ等、胴長を着用して採取したところ、ヤゴの幼虫数匹を捕獲、松田さんからヤゴの検索を教えて貰う。イトトンボの仲間のようなであった。帰る頃コシアキトンボが飛び始めていた。

(近藤 芳子)

測定点	山水(入浜西端)	池の山側(C'地点)	池の海側(F地点)	海水(波打ち際)
水温	18.6℃	17.9℃	27.4℃	21.8℃
pH	7.1	6.1	6.5	8
塩分	0%	0%	0.23%	2.40%
COD	3mg/l	6 mg/l	13 mg/l	2 mg/l
水位	—	+2cm	+4cm	—
その他	流量:1分間 100ℓ	水面は油膜様	水路の流量:1分間 400ℓ	満潮時刻 12:47

(6月27日の測定結果)

◇ 編集後記 ◇

▼RCC エコロジー大賞を受賞したのが、PV 10 周年の年で感慨深いものがある。継続は力なりと言うが、この快挙は会員一同、胸を張ってもよいと思う。個々の活動は地味でも集団として長年月のパワーに対して社会はきちんと評価してくれている。これからも着実にボランティア活動を続けて行きたいものである。(足立)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方
 環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6 番 30 号

広島合同庁舎 3 号館 1 階

TEL(082)223-7450・FAX(082)211-0455

宮島詰所

(〒739-0505)廿日市市宮島町 1162-18

(宮島桟橋 2 F)